

# 平成27年7月13日～7月19日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について （お知らせ）（平成27年度第10報）

## 1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について情報提供をしております。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行うことといたしました。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

## 2. 先週（7月13日～7月19日）の全国の暑さ指数の観測状況について

### 暑さ指数31℃以上（危険）の時間数（168時間中）

1. 与那国島（沖縄県）、西表島（沖縄県）	11時間
3. 秩父（埼玉県）	10時間
4. 福島（福島県）	8時間
5. 熊谷（埼玉県）、石垣島（沖縄県）	7時間

### <参考>全国9都市の観測地点

札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	3時間
名古屋（愛知県）	0時間
大阪（大阪府）	0時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	0時間
鹿児島（鹿児島県）	0時間

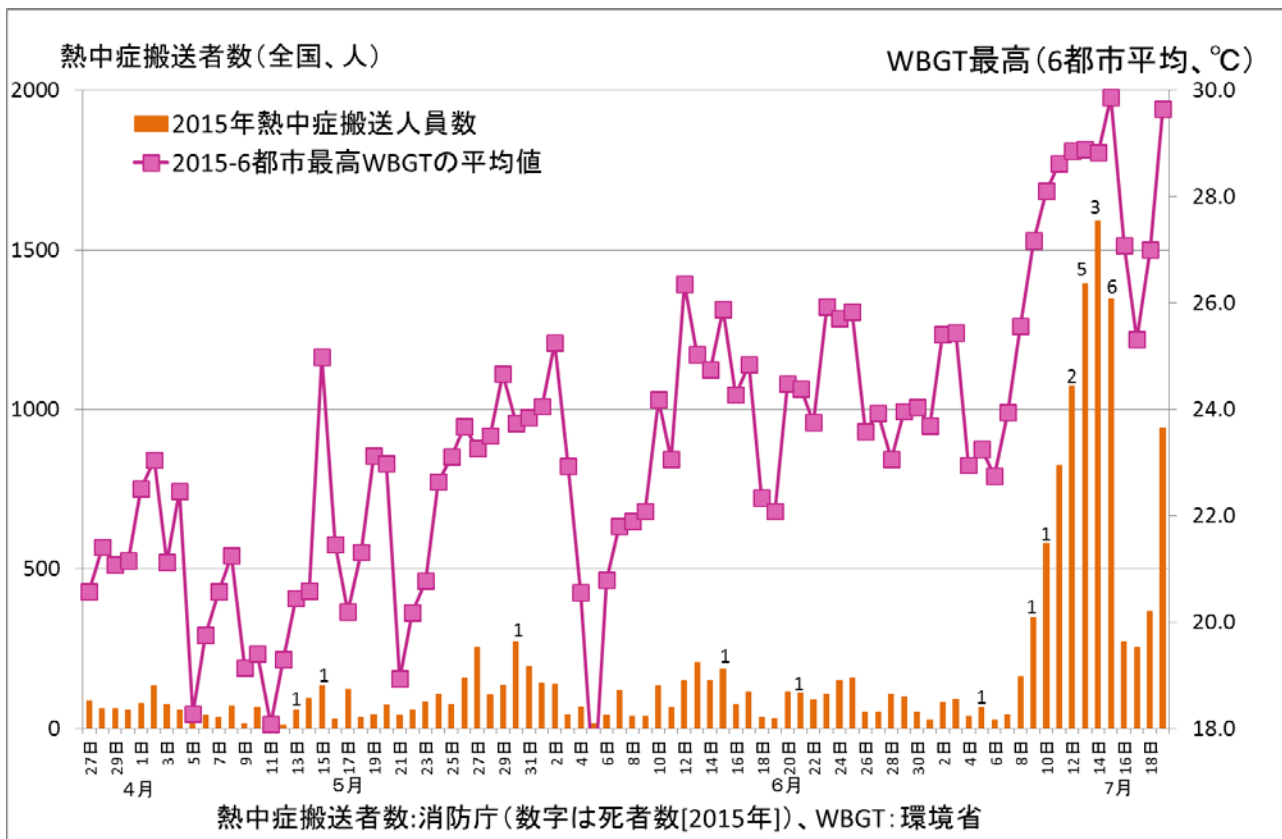
（注1）暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

（注2）暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、与那国島及び西表島の11時間が最多でこの時間数は先週より少なくなりましたが、153地点のうち、暑さ指数31℃以上の時間がありましたのは20先週6地点に比べ3倍以上になりました。

なお、暑さ指数31℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

### 3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数（全国）との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月13日～7月19日までの期間は25～30°Cで、期間中頃の16日～18日を除いて28°Cを超えています。消防庁発表の速報によると、熱中症による救急搬送者数は、暑さ指数の低かった上記3日間を除くと1000名前後と極めて多い水準で推移し、14日には1590名となり、今年初めて1500名を超えました。
- 全国的に高温傾向となっています。東北から南西諸島の20地点で、昼間の日最高暑さ指数(WBGT)が熱中症の危険度の「危険」を示す31°Cを超過しました。これは今年になって最も多い地点数となっています。さらに、北海道を含めて、全国的に多くの地点で「厳重警戒」を示す同28°Cを越し、広い範囲で熱中症に厳重な警戒が必要な状態になっています。
- 気象庁発表（7月22日11時時点）の週間天気予報では、最高気温・最低気温ともに、北日本と東日本は平年並か平年より高く、平年よりかなり高い所もあるでしょう。西日本は平年並か平年より低い所が多いですが、平年より高い所もあるでしょう。沖縄・奄美は、平年並か平年より低い見込みです。
- 全国的にかなりの高温になり、今後も晴天の日にはかなりの高温が見込まれます。このため、熱中症厳重な警戒が必要です。不要不急の外出、作業を控えること、室内では無理せずエアコンを使うこと、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理に十分に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡